

令和6年3月

保護者・地域の皆様
関係各位

世田谷区立代田小学校
校長 篠原 和也

令和5年度代田小学校 学校関係者評価報告を受けて

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、ありがとうございます。

令和5年度の学校関係者評価結果に基づく報告書を受け、以下のように令和6年度学校改善方針をご報告いたします。

1 令和5年度の重点目標の課題

○ 互いのよさを認め合い、相手を尊重できる子どもの育成

児童の「私は、相手や場に応じた言葉遣いをしている。」は、肯定的評価が昨年度の49%から71%と向上した。「生き方や将来のことについて考える授業がある。」は、児童の肯定的評価が71%（昨年度67%）、保護者が「分からない」と回答した割合が32%であった。相手とともに自己理解を深め、自らを高めていくキャリア教育の更なる推進と保護者や地域に向けての啓発が必要である。「学校が楽しい。」「学校が好き。」と回答した5,6年児童は、それぞれ76%（昨年度77%）、66%（昨年度67%）と低い割合となった。また、「先生たちに相談できる。」は、肯定的評価が75%と低い。魅力ある学校づくりが急務である。

○ 自らの課題に意欲をもって取り組み、自分の力を高めることができる子どもの育成

児童の「授業中友達と話し合ったり、協力して学習したりしている。」の肯定的評価は、89%で、保護者は、78%と高いのに対して、「自分で課題をもって学習し、できたことやできないことを振り返っている。」は65%で、保護者は60%と低い割合となっている。今後さらに、児童の学習意欲をさらに高め、ICT等を活用して、児童主体の授業改善を図る必要がある。

○ 自分の健康や体力に関心をもち、すすんで運動に取り組む子どもの育成

保護者の「本校は、体力の向上を目指し、様々な取組を行っている。」の肯定的評価は73%と80%に満たない。また、児童の「体育の授業や休み時間に体を動かしている。」は75%であった。体育科の授業の充実や日常的な運動に親しむ取組について改善を図る必要がある。

2 令和6年度の重点目標と具現化のための方策

学校の教育目標及び世田谷区の基本方針を受けて、来年度の重点目標を以下の5点とする。

- ◎ 地域や学校の特色を生かし、様々な人と関わりながら学ぶことを通して社会の中での自己実現や将来の夢や目標をもつことができるようにする。
- ◎ 自ら課題を見だし、学習の見通しをもって取り組み、友達と協働しながら解決し、自分の学びを振り返ることができるようにする。
- ◎ タブレット端末の活用の方法を探究し、個別最適な学びを保障するとともに自分の学習の成果を収めたり、児童相互に確認し合ったりできるようにする。
- ◎ 全教育活動を通して人権尊重教育を推進し、自分の個性や能力、発達特性等を理解

させるとともに、相手の多様性を理解させ、良好な人間関係を育成する。

- ◎ 校内の会議の精選や事務的な業務の削減を通して、教員の創造的な時間を確保するとともに児童との対話を増やし、児童の健全な心身の育成を図る。

○ 「やさしい子」を具現化するために

- ・ 人権尊重の理念を重視する。 教職員も児童も正しい言葉遣いを心がけ、教師も児童同士も名前を呼ぶときには「さん」の敬称を付けて呼ぶことを徹底する。
- ・ いじめ防止教育を推進する。 いじめが疑われることが発覚したら、いじめ対策委員会を招集し、事実確認を行い、早期解決に向けて組織的に対応する。
- ・ 交流活動を大切にす。 異年齢集団による交流や幼保小の交流、中学生との交流、地域の方々との交流活動を通して、互いに認め合う態度を育て、温かい人間関係を深める。
- ・ キャリア教育を推進する。 「キャリア・パスポート」を有効活用する。また、道徳や総合的な学習の時間を中心に生き方や将来のことについて考える授業を充実させる。
- ・ 児童との対話を重視する。 教職員の業務を見直し、ゆとりの時間を生み出すことで児童と関わったり、相談に乗ったりする時間を増やす。

○ 「考える子」を具現化するために

- ・ 協働的な学びを支える学級集団をつくる。 互いのよさを認め合い、尊重し合える学級集団を育てる。そのために相槌や相互指名、ハンドサイン等の共通の手立てを行う。
- ・ ICTの活用を推進する。 タブレット端末を活用した授業を推進する。個別最適化した課題解決学習や探究活動、ロイロノート等での考えの交流、家庭学習に活用を推進する。
- ・ 教員の各教科等の専門性を高める。 高学年の一部教科担任制や交換授業を取り入れ、教員の教材研究の時間を確保し、児童に教科等の特性に触れる楽しさを味わわせる。
- ・ 校内研究の充実を図る。 学習意欲を高めるための具体策を教員同士が議論し、実践・検証を繰り返し、児童の「読む力」や「書く力」等を育てる。

○ 「つよい子」を具現化するために

- ・ 体育施設を有効活用する。 日常的に運動に親しめる環境を整備する。体育用具の充実や魅力的な運動の場づくりを通して児童の運動欲求を充足させる。
- ・ 体力向上の取組を行う。 マイチャレンジタイム（1学期：長なわ 2学期：持久走 3学期：短なわ）を設定し、運動に取り組む意欲を高め、体力の向上を図る。
- ・ 健康教育を推進する。 養護教諭、栄養士と連携を図り、保健教育と食育の充実を図る。

3 まとめ

学校関係者評価の回答率は、保護者 78%（昨年度 48%）地域 52%（昨年度 24%）と上昇した。魅力ある学校づくりにおいて、その基礎となる学級経営の充実を図る必要がある。児童一人一人が安心して楽しい学校生活を送れるように学級生活が充実するように教員の個性を生かすとともに教員間の連携を密にする。学び舎の交流行事など地域・保護者に参観していただく機会を設定し、学校HP等で情報を提供していく。新年度の教育方針や具体的な活動について地域、保護者及び児童に丁寧の説明し、理解を求めていく。